

## ■特別寄稿

北高「世界の人たれ講演会」で講演  
令和3年3月23日(火)

「ベンチャースピリットが世界を変える」

安達宏昭(43期)



近畿双松会の松本会長からご推薦いただき、令和2年度「世界の人たれ講演会」で講演する機会を得ました。前年度はコロナのため中止になっており、新型コロナウイルスの感染状況が大変心配でありましたが、幸いにも予定通り令和3年3月23日に開催できました。

通常、北高体育館で開催されますが、密を避けるため、島根県民会館大ホール（定員1,722人）を使用することになり、広い会場で講演させていただき、大変光栄でした。

インターネット経由のリモートで講演する選択肢もありましたが、私としては直接、生徒さんたちに会って話したいと希望したため、北高の先生方には会場選びのご負担をお掛けしましたが、リアル開催で良かったと心底思います。

おかげで私の講演にも熱が入りました。当日は、1年生と2年生、そして保護者と教職員が間隔を空けて着席でき、感染対策としては十分でした。

講演日に向けて、私が大阪から島根へ移動するため、万全のコロナ対策が求められました。まずPCR検査による陰性証明が必要で、もし陽性と診断されたら、講演中止となっていたことでしょう。移動は人ととの接触を避け、自宅から島根県民会館まで自家用車を使用しました。

また、生徒さんとの接触もなく、講演台に立ったのみで、母校への訪問もなく、とんぼ返りで大阪に戻っていました。久しぶりの帰省となりましたが、誰とも会うことなく、昼食に立ち寄った「中国山地蕎麦工房 ふなつ」のお蕎麦が唯一の楽しみでした。

さて、講演タイトルを決める際、担当教諭から「講演内容は、ぜひ『世界の人たれ、北高生！』ということで大いに生徒を鼓舞して欲しい」と依頼されました。そういうことならと、「ベンチャースピリットが世界を変える」と大それたタイトルを提案したところ、「私たちが今、求めていることそのものです」と即決でした。

講演内容は、普段の社会人や企業向けの話をする訳にはいかず、高校生向けにアレンジする必要がありました。私の長女が高校2年生（当時）なので、ヒアリングしたところ「ポジティブで前向きな話が良い」とアドバイスを得ました。

さらに、北高生が聞きたい内容を選択するのが良いと考え、講演中に直接選択してもらうように内容を考えました。



「世界の人たれ講演会」で講演

講演当日、以下の4つのテーマを提示しました（カッコ内は私の肩書）。

① 志望大学に合格するための方法

（大阪大学 特任教授）

② 異分野連携による革新技術の創出～自分のやりたいことで社会貢献する方法

（株式会社創晶 代表取締役社長）

③ コミュニケーションスキルを高める方法

（社会福祉法人あおば福祉会 理事）

④ オールジャパン体制による産業創造～がっちり儲ける方法

（一般社団法人日本MA-T工業会 専務理事）

それぞれのテーマのイントロとして、私が経験してきたことを簡単に紹介した後、生徒さんたちの多数決を取りました。

私の予想では、①の大学受験の話題が圧倒的多数で選出されると思っていましたが、意外にもほぼ均等に希望が分散されたため、選ぶことができませんでした。

そこで、生徒会長に一任して選んでもらいましたが、まさかの<④>になりました。副題で付けた「がっちり儲ける！」が心に響いたのかもしれません。ある意味、北高生はしっかりとしているなあと感心しました。

当初の予想に反した結果でしたが、「ポジティブで前向きな話により、北高生を鼓舞する」を念頭におき、ベンチャースピリットに係る私の体験や経験に基づく話をしました。

主にメンタルのことを話題にしたので、高校生にも参考になったのではないかと思います。

要約すると、

- ① 失敗を恐れずに、チャレンジを続ける！
  - ② 何事も経験と思い、いろいろと行動する！
  - ③ 毎日を大切に過ごし、人生を楽しむ！
- ・・・が、北高生に伝えたかったことです。

私の言葉では、北高生の心に響かないかもしれないで、激動の時代を生き、多くの功績を残した渋沢栄一氏が残した言葉から、

- ① 自分の足で立って生きよ
  - ② 順境も逆境も自分が作り出すものである
  - ③ 大きな目標へ、ゆっくり急げ
- ・・・を紹介し、道を切り拓くことを勧めました。

そして、最後には北高生と相互に対話しながらメンタルトレーニングを実施しました。

日本人は否定形を多用する傾向にあるため、否定的な表現を肯定的な表現に変換する問題を提示して、順番に答えてもらいました。

例えば、

「忘れ物するな」→「用意できた？」  
「遅刻するな」→「時間通りに来てね」  
「喧嘩するな」→「仲良くしましょう」  
・・・のような言い換えです。

忘れ物や遅刻などの失敗したイメージを想起させるのではなく、るべき姿や結果を示すことで、その達成確率が向上することを伝えました。

実際にやってみると、生徒さんが回答に窮する場面もありましたが、大いに盛り上がりました。この体験が、前向きに考えるきっかけとなり、物事の捉え方を変える気づきになれば幸いです。つまり、置かれている状況は同じでも、捉え方次第で人生が変わることを北高生が感じてくれたら、私の講演は大成功だったと思います。

『世界の人たれ、北高生！』を応援する北高卒業生の一人として、世界に羽ばたき活躍する北高生が多数輩出されることを期待しております。

今回、講演の機会をいただき、関係者の皆様に改めまして感謝申し上げます。また講演する機会があれば、準備していた別テーマの話題提供ができれば嬉しいです。



講演後、生徒さんから花束をいただきました。